

檢  
法  
鑑

B150  
K 29  
1

固有法文庫  
第 392 號

B

檢法初鑑

皇國海軍理問會文庫

凡例

44-667  
昭和 19. 8. 23

五五

陸軍省  
圖書部

393

一 本書ハ文化以來或指墨案抄紙又ハ見分毎皮ハ号金堂紙  
所存所為又ハ所存所為ハ高麗見ありてハ所為ハ何其ハ  
紙の如くハ和ハ紙と考へたり。既、所存及ハハ紙ハ字事を以テ  
部抄と分十部とてハ是ハ所為ハ一初ハ一初ハ是ハ紙ハ高麗  
ハ後偏ハ所為ハ

一 新創所存又ハ所存ハ所為ハ何其ハ  
一 上方ハ所存ハ所為ハ何其ハ  
一 所存ハ所為ハ何其ハ  
一 所存ハ所為ハ何其ハ  
一 所存ハ所為ハ何其ハ

B150  
K 29  
1

- 辺部にては清史を法と載入
- 支那を多分の原目・国史に―文字の誤りあり、著者の口ハハシテ  
真字のうろこりカ多ク誤有―重訂ハ
- 尙先檢尾又ハ見カ不及カト異史のあり其後考ハカ有カ  
行ハ多シカ
- 野々抄鳥佐馬ホカ規矩ハ清編カ如ク

檢法秘鑑 目録

巻の一

人教蔵身の部

- 他支那秘傳到今カ人教之秘分カ入カ年ノ変
- 秘傳カ多ク陽州局トカ年―其書ヲ教クカカ秘傳カ内  
カ年―其書ヲ秘傳カ親カ到カカ年ノ変
- 教カ多ク秘傳カカ年ノ変
- 教カ多ク秘傳カカ年ノ変
- 内書カ秘傳カカ年ノ変
- 他支那秘傳到今カ人教蔵身カ入カ年ノ変  
カ年ノ変
- 秘傳カ多ク秘傳カカ年ノ変
- 秘傳カ多ク秘傳カカ年ノ変
- 秘傳カ多ク秘傳カカ年ノ変
- 秘傳カ多ク秘傳カカ年ノ変
- 秘傳カ多ク秘傳カカ年ノ変

B150
K 29
1

標着しありて他 北越 廣前 合志 長門 糸川 等あり別州 長門あり

他支那州のよの他州をて自言自減しての長門の支

一 和歌山合志の長門あり長門あり別州の長門あり長門あり

一 相模の長門あり

他支那州のよの他州の長門あり

二 長門あり長門あり

一 長門あり長門あり

他支那州のよの他州の長門あり

巻の目

一 長門あり長門あり

一 長門あり長門あり

一 長門あり長門あり

長門あり

一 長門あり長門あり

一 長門あり長門あり

長門あり

人の部

長門あり

長門あり長門あり

一 長門あり長門あり

長門あり

一 長門あり長門あり

長門あり

一 長門あり長門あり

但任別ありては幾可後方不世来も取而めりて四國時終  
昔中那へ物のみは死後難物五年の文

一 河成市。建礼五年の文

一 任別ありては任人難物の内金部五年の文

一 有り難物の内或るの故昔中那と云ふては女品も任別ありては  
り任別ありては五年の文

一 任別ありては見付見物ありては用をせしむ建礼五年の文

一 河成内任別ありては昔中那と云ふては分昔中那に在りては任別ありては  
所方、河成の文

一 那へ又、河成物ありては野那へと云ふては急交治定不汝任別ありては  
五年の文

一 後昔中那任別ありては

一 分昔中那物ありては昔中那へり任別ありては建礼五年の文

一 有り難物ありては任別ありては後任五年の文

一 有り難物ありては任別ありては昔中那へり任別ありては河成内村方  
支能河成友申送書

河成任別ありては

但任別ありては

一 任人難物ありては河成任別ありては五年の文

一 河成任別ありては任人難物ありては五年の文

一 任人難物ありては任人難物ありては河成任別ありては五年の文

但任人難物ありては任人難物ありては河成任別ありては五年の文

一 河成任別ありては任人難物ありては五年の文

一 右の任別ありては

一 河成任別ありては任人難物ありては五年の文

一 性来河内... 村に産み... 和泉... 元年... 又... 地... 元年

巻の二

相對死と事

- 一 男中相... 又... 死... 元年の事
- 一 女... 教... 元年の事
- 一 女... 主人... 死... 元年の事
- 一 初... 死... 元年の事

孩子の事

- 一 孩子... 事... 元年の事
- 一 孩子... 事... 元年の事

孩子... 事... 元年の事

村... 事... 元年の事

孩子... 事... 元年の事

養育... 事... 元年の事

孩子... 事... 元年の事

迷子の事

迷子... 事... 元年の事

迷子... 事... 元年の事

出火の事

出火... 事... 元年の事

出火... 事... 元年の事

出火... 事... 元年の事

別御の事

- 多行の代に村を言ふ事多し其年一系に居る事あり其年其の焼く
- 之多し其より見たり其の事あり其の事あり其の事あり
- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり
- 多行の焼く事あり其の事あり其の事あり其の事あり
- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり
- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり
- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり

別紙を添

- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり
- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり
- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり
- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり
- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり

大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く

他大元のもの焼く事あり其の事あり其の事あり其の事あり  
 他大元のもの焼く事あり其の事あり其の事あり其の事あり  
 大元のもの焼く事あり其の事あり其の事あり其の事あり

- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり
- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり
- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり
- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり
- 大元のもの入身日数多し其年一系に居る事あり其の焼く
- 中身多し其の焼く事あり其の事あり其の事あり

一 高札帳其の不熟性の方を元御衆の文

一 送中よりくる高札、相成りしに判濫性の方を元御衆の文

巻の四

上方八ヶ国の部

一 上方御所御成文を奉りお入し候物も平一力文

他別紙も字集

一 御料お村方より他別紙紙原にまゝにお入し候例の文

一 御料お村方より紙原のものを執り又いふ所にお其の遠方より高札例の文

一 御料お村方より教書お其の遠方より高札例のものを引合し候御所  
御料お村方より紙原のものを御所より高札例の文

一 御料お村方より紙原のものを御所より高札例の文

一 御料お村方より紙原のものを御所より高札例の文

一 高札例村より高札例村へ高札の文

他別紙も字集

一 他別紙紙原のものを支取所内より水元信託其の遠方より高札例の文

一 高札例村より高札例村へ高札の文

一 御料お村方より紙原のものを御所より高札例の文

一 御料お村方より紙原のものを御所より高札例の文

一 御料お村方より紙原のものを御所より高札例の文

一 御料お村方より紙原のものを御所より高札例の文

一 御料お村方より紙原のものを御所より高札例の文

一 御料お村方より紙原のものを御所より高札例の文

一 御料お村方より紙原のものを御所より高札例の文

一 御料お村方より紙原のものを御所より高札例の文



一 門代家子能又と云は産長く初印の件 高直なりと書面写本に  
如又

一 石和園村と云は 松安との村役人又と云 若杉人おる 押印の  
物人 大分と云は 多分の文

雑の部 一と

一 人教海舟と云は 松安との 押印の文

一 人教海舟と云は 松安との 押印の文 又と云 支那州内

一 所名各地 松安、海辺 松安と云 松安の文

一 支那州のよ 関打と云 又と云 松安の文 又と云 松安の文

一 物印の文 松安の文

一 松安の文 松安の文 松安の文 松安の文 松安の文

一 松安の文 松安の文 松安の文

一 松安の文 松安の文 松安の文 松安の文 松安の文

道中

一 松安の文 松安の文 松安の文 松安の文

一 松安の文 松安の文 松安の文 松安の文 松安の文

一 松安の文 松安の文 松安の文 松安の文

一 松安の文 松安の文 松安の文 松安の文

一 松安の文 松安の文

一 松安の文 松安の文 松安の文

巻の五

雑の部

一 支那園 松安の文

一 松安の文 松安の文 松安の文 松安の文

一 支那の文



日新道ありしを其師ありし致仕を稱又序府と兼り書分とん  
下りてあり

一 教のありてありし或る日師ありし私願ありしと兼り不長也師ありてありし  
以れん今も其来く中法重師ありてありしと兼り其師ありてありし  
親師ありてありし人一人其師ありてありし相師ありてありし  
てありし其師ありてありし人一人其師ありてありし

一 教のありてありし師ありてありし師ありてありし師ありてありし  
其事ありてありし師ありてありし師ありてありし師ありてありし  
一 師ありてありし師ありてありし師ありてありし師ありてありし  
師ありてありし師ありてありし師ありてありし師ありてありし

但り又もありてありし師ありてありし師ありてありし師ありてありし  
師ありてありし師ありてありし師ありてありし師ありてありし  
師ありてありし師ありてありし師ありてありし師ありてありし

一 人教のありてありし師ありてありし師ありてありし師ありてありし  
師ありてありし師ありてありし師ありてありし師ありてありし  
師ありてありし師ありてありし師ありてありし師ありてありし

一 師ありてありし師ありてありし師ありてありし師ありてありし  
師ありてありし師ありてありし師ありてありし師ありてありし  
師ありてありし師ありてありし師ありてありし師ありてありし







他重徳人之所切望也其子代其父一為見其多而之不在何  
先方通達其大早進之代其父一其後十有九年方有之也

一 病所及内海承應之文  
病所及内海承應之文  
病所及内海承應之文  
病所及内海承應之文  
病所及内海承應之文  
病所及内海承應之文  
病所及内海承應之文  
病所及内海承應之文  
病所及内海承應之文  
病所及内海承應之文

壬三月

一人歿也云云

添書  
十三年仁徳  
役所

小笠原仁徳河代役所 奥州河内郡小笠原村人新由内之より南宮  
之より河内より河内致致言也云云 在任業之より 為年以より  
在河内平之より河内之より 在河内平之より 役人、平業  
之より河内平之より河内平之より

壬三月

役所

陸奥河内郡

年号

古之通也其内本切之徳上之紙糊り也成之右新也其曲木村人徳  
初河内平之より河内平之より 在任業之より 在河内平之より  
河内平之より河内平之より 河内平之より河内平之より 河内平之より  
河内平之より河内平之より 河内平之より河内平之より 河内平之より  
河内平之より河内平之より 河内平之より河内平之より 河内平之より  
河内平之より河内平之より 河内平之より河内平之より 河内平之より





一 主人の申す所御さす所の御事なるは死體の仕立なり  
主人の申す所御さす所の御事なるは死體の仕立なり  
主人の申す所御さす所の御事なるは死體の仕立なり

一 支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は

一 支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は

一 支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は

書面控四巻は此書九つありて通川

一 支那の内なる他國より河上流に流るる水は

一 支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は

永朝の巡りて十廿

一 支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は

一 支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は

一 支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は  
支那の内なる他國より河上流に流るる水は





是の史を考ふるに、初は時、後には、  
之の如く其の事、惟て其の事、  
得る事して、その事、  
得る事、  
高十ナリ

一 江戸所方の事、  
和即成、  
又、  
見、  
高十ナリ

乙ナリ

書面、

一 諸家、  
諸家、  
高十ナリ

乙ナリ

書面、  
高十ナリ



中ノ

一 妻死ハ又之ハ所死ハ自他ニ仕業爲見本共所ノハ少可  
兼此ノ

山平ハ其ノ如ク妻死ハ所死ハ人而之ハ同書ハ代死所ノ元ノ了ノハ元  
可共所ノハ少ク其ノ自他ニ仕業 自業自滅ニ任初所死ハ病死ニ  
仕業ハ自他ノ了ノハ見本ノ了ノハ一ノ不中少平死自他ニ仕業見本  
リ爲ノ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ  
仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ  
仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ  
見本ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ  
見本ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ

五ノ一ノ廿ハ

一 而此所ノ言リ何モ任所死ノ了ノハ少ク其ノ仕業ノ了ノハ少ク  
仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ

此ハ其ノ中ノ如ク仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ

行交ハ此所ノ内ノ言リ何モ任所死ノ了ノハ少ク其ノ仕業ノ了ノハ少ク  
力ハ此所ノ内ノ言リ何モ任所死ノ了ノハ少ク其ノ仕業ノ了ノハ少ク  
又ハ此所ノ内ノ言リ何モ任所死ノ了ノハ少ク其ノ仕業ノ了ノハ少ク  
人初事此ノ内ノ言リ何モ任所死ノ了ノハ少ク其ノ仕業ノ了ノハ少ク  
更レハ此所ノ内ノ言リ何モ任所死ノ了ノハ少ク其ノ仕業ノ了ノハ少ク  
陰ハ此所ノ内ノ言リ何モ任所死ノ了ノハ少ク其ノ仕業ノ了ノハ少ク  
五ノ一ノ廿ハ  
仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ  
仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ

仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ  
仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ  
仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ  
仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ仕業ノ了ノハ

河内國又云其古名曰河内、若已國之順於此、  
其古名曰河、凡此或世來之語、  
河内之古名曰河、  
河内之古名曰河、  
河内之古名曰河、

- 一 河内國之古名曰河、  
一 河内國之古名曰河、  
一 河内國之古名曰河、  
一 河内國之古名曰河、

河内國之古名曰河、  
河内國之古名曰河、  
河内國之古名曰河、  
河内國之古名曰河、  
河内國之古名曰河、

- 一 河内國之古名曰河、  
一 河内國之古名曰河、  
一 河内國之古名曰河、  
一 河内國之古名曰河、









上石陽村

下石陽村

石市所

南島川

中島所

中島所

河州豊後郡

市ヶ所

内夏新島

下石田所

南島所

石市村

上石田村

下石田村

改代村

中丸村

金杉水田所

第口水田

今井所

代々所

鏡 錦村

牛田村

戸塚村

長島所

長久所

小石川村

権田所

長島村

子孫所

馬場所

大久保村

少り所

上石田村

石板所

池袋村

世々所

河州豊後郡

谷中村

谷中村

約山所

深井村

阿比村

阿比村

淺野村

田島村

中島村

中島村

下尾村

松平村

上尾村

新阿比村

阿比村

三河所

金杉村

阿比村

中島所

阿比村

上島所

上島所

新島所

笠嶋所

三島村

三島村

今戸村

少島所

中島所

世々所

河州豊後郡

南島所

中島所

河州所

権田所

石市村

平島村

阿比村

永代所

阿比村

阿比村

石市村

中島村

一 芝口北郷村にて何れも人改種五年の支  
 所用勿多後少役及向  
 新入内代支所 内府内也在芝口北郷村にて何れも人改種五年の支  
 初列少多向少役後少役及向  
 其後何れも人改種五年の支  
 芝口北郷村にて何れも人改種五年の支  
 所用勿多後少役及向

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| 少多木村 | 又多木村 | 北多木村 | 久多木村 |
| 少多木村 | 又多木村 | 北多木村 | 久多木村 |
| 少多木村 | 又多木村 | 北多木村 | 久多木村 |
| 少多木村 | 又多木村 | 北多木村 | 久多木村 |
| 少多木村 | 又多木村 | 北多木村 | 久多木村 |
| 少多木村 | 又多木村 | 北多木村 | 久多木村 |
| 少多木村 | 又多木村 | 北多木村 | 久多木村 |
| 少多木村 | 又多木村 | 北多木村 | 久多木村 |
| 少多木村 | 又多木村 | 北多木村 | 久多木村 |
| 少多木村 | 又多木村 | 北多木村 | 久多木村 |

芝口北郷村にて何れも人改種五年の支

所用勿多後少役及向

一 芝口北郷村にて何れも人改種五年の支  
 所用勿多後少役及向  
 新入内代支所 内府内也在芝口北郷村にて何れも人改種五年の支  
 初列少多向少役後少役及向  
 其後何れも人改種五年の支  
 芝口北郷村にて何れも人改種五年の支  
 所用勿多後少役及向

芝口北郷村にて何れも人改種五年の支

所用勿多後少役及向

新入内代支所 内府内也在芝口北郷村にて何れも人改種五年の支

別所中身名如中身名忍忍現任使より陽州月九日陽州より  
伊書より勿備仰書に北を陽州より忍忍現任使より仰書

河内より忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書

忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書

忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書

忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書

忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書

忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書

忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書

忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書

忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書

忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書

忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書

忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書

忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書

忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書に忍忍現任使より仰書









物止る事

一 物止る事

一 物止る事

一 物止る事

一 物止る事

二月

一 物止る事

一 物止る事

一 物止る事

一 物止る事

一 物止る事

一 物止る事

一 物止る事

戌

拾子

一 物止る事

一 物止る事

一 物止る事

一 物止る事

一 物止る事

十月

一 物止る事

一 物止る事

一 物止る事

一 物止る事

一 物止る事

以月之望

今通所より初めを交わす所より

今通所より初めを交わす所より其得は正其方ハお祈り、不為念上

高きなり

一 孩子が育ちて大人になるまで

一 交わす所より初めを交わす所より其得は正其方ハお祈り、不為念上  
一 痛みの交わす所より初めを交わす所より其得は正其方ハお祈り、不為念上  
一 後人から初めを交わす所より初めを交わす所より其得は正其方ハお祈り、不為念上

但し孩子の心は、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上

子細かくお祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上

お祈り、不為念上

一 孩子の病に気がつくまで

一 孩子の病に気がつくまで、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上

お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上

其後、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上

一 孩子の病に気がつくまで

一 孩子の病に気がつくまで、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上

其後、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上

書面、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上

お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上

お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上

お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上

お祈り、不為念上

お祈り、不為念上

一 孩子の病に気がつくまで

お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上、お祈り、不為念上

中村其院の庵に於て撰りて伝ふ

但書人方々之是又此と云々所一又而之其難ぬ之長  
傳十載と云々中村其院撰りて傳ふ之文方々同撰又云々  
方々之撰りて伝ふ

書面印又但書人方々何也也  
高甲

一 抄のり更書者方々

書面之抄子其四行引文 其書者方々之六進言其文人方々之書  
方々何也其書者中其書之而之方々之其院之撰りて傳ふ  
抄又云々之其書者何也

高甲

一 抄のり更書者方々

書面之抄子其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也  
又方々之撰りて傳ふ其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也  
抄子其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也

二十

一 抄のり更書者方々

書面之抄子其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也  
不年抄也其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也  
其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也  
其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也

二十

一 抄のり更書者方々

書面之抄子其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也  
其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也  
其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也  
其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也其書者何也

但此の事又かく申すに御座り候事候に係り候事候也  
方々御座り候事候に御座り候事候也  
其の御座り候事候に御座り候事候也  
申すに御座り候事候也

長十一年

遊子とて

一 遊子の事候事候に御座り候事候也

杉平村鳥居友

物野方陽子

遊子の事候

存り候事候に御座り候事候也  
其の御座り候事候に御座り候事候也  
申すに御座り候事候也

一 遊子の事候事候に御座り候事候也

遊子の事候

申すに御座り候

一 遊子の事候事候に御座り候事候也

一 遊子の事候事候に御座り候事候也

其の御座り候事候に御座り候事候也

申すに御座り候事候也

知事とて

一 遊子の事候事候に御座り候事候也

其の御座り候事候に御座り候事候也

申すに御座り候事候也

其の御座り候事候に御座り候事候也

申すに御座り候

一 遊子の事候事候に御座り候事候也





夫向... 別... 中...

中...

下向札書後

一 大元... 一 大元... 一 大元...

他... 所...

一 大元... 一 大元... 一 大元... 一 大元...

一 大元... 一 大元...











今更に申す所ありし事ありては、先年より、  
多分は、此の如く、  
所存の如く、  
歸來の如く、  
申す所あり

書面より、  
所存の如く、  
申す所あり

書面より、  
所存の如く、  
申す所あり

申す所あり

一 所存の如く、  
申す所あり

書面より、  
所存の如く、  
申す所あり

一 所存の如く、  
申す所あり

申す所あり

一 所存の如く、  
申す所あり

書面より、  
所存の如く、  
申す所あり

申す所あり

一 所存の如く、  
申す所あり

書面より、  
所存の如く、  
申す所あり







この書は、その名の通り、  
その名の通り、  
その名の通り、

成丁月にて

大和國文記  
中夜二月中

常山北より、  
常山北より、  
常山北より、

常山北

大和國 人おし、  
大和國 人おし、  
大和國 人おし、

一 物名、  
一 物名、  
一 物名、

常山北より

一 大和國、  
一 大和國、  
一 大和國、

一 物名、  
一 物名、  
一 物名、

一 物名、  
一 物名、  
一 物名、



止りて世書に於て物々として其の所を以て其の所を以て

但何れも其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
細書ありし相其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て

一 物名を記し其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
物々として其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
其の所を以て其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て

物名を記し其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
物々として其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
其の所を以て其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て

但此れ其の所を以て

一 物名を記し其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
物々として其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
其の所を以て其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て

物名を記し其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
物々として其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
其の所を以て其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
物名を記し其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
物々として其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
其の所を以て其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て

但此れ其の所を以て

一 物名を記し其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
物々として其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て  
其の所を以て其の故跡を以て其の所を以て其の所を以て其の所を以て





外化の事多し信之方より別院及信所を積累何れ世多能地以て信  
修定あり細方よりハ事多し其よりハ信所ハ信所ハ信所ハ

一 出所之方より地多能地以て信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ

一 但之令御よりハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ

一 初め内之世多能地以て信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ

一 中よりハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ

一 但手信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ

一 信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ

一 見別信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ  
信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ信所ハ





右所居しよのうらむれりあしと先方没へ、至念無御初りよのや年  
第、おれは年中方おのち御し、翌日獲他所へ分込のち御安の御多  
要ふし、しよのち御し、他所へ分込のち御安の御多、至念  
先方も右御し、御安のち御し、少許別り、お進み、お進み、  
く、至念無御初りよのや年、お進み、お進み、お進み、  
至念無御初りよのや年、お進み、お進み、お進み、  
し、お進み、お進み、お進み、お進み、お進み、  
お進み、お進み、お進み、お進み、お進み、  
お進み、お進み、お進み、お進み、お進み、  
お進み、お進み、お進み、お進み、お進み、

但、お進み、お進み、お進み、  
お進み、お進み、お進み、

一 此所より又、しよのち御し、翌日獲他所へ分込のち御安の御多、  
至念無御初りよのや年、お進み、お進み、お進み、

一 此所より又、しよのち御し、翌日獲他所へ分込のち御安の御多、  
至念無御初りよのや年、お進み、お進み、お進み、

此所より又、しよのち御し、翌日獲他所へ分込のち御安の御多、  
至念無御初りよのや年、お進み、お進み、お進み、  
お進み、お進み、お進み、お進み、お進み、  
お進み、お進み、お進み、お進み、お進み、  
お進み、お進み、お進み、お進み、お進み、  
お進み、お進み、お進み、お進み、お進み、

一 此所より又、しよのち御し、翌日獲他所へ分込のち御安の御多、  
至念無御初りよのや年、お進み、お進み、お進み、

前、お進み、お進み、

前、お進み、お進み、お進み、お進み、お進み、  
お進み、お進み、お進み、お進み、お進み、  
お進み、お進み、お進み、お進み、お進み、  
お進み、お進み、お進み、お進み、お進み、  
お進み、お進み、お進み、お進み、お進み、

但、お進み、お進み、お進み、  
お進み、お進み、お進み、

一 此所より又、しよのち御し、翌日獲他所へ分込のち御安の御多、  
至念無御初りよのや年、お進み、お進み、お進み、

一 此所より又、しよのち御し、翌日獲他所へ分込のち御安の御多、  
至念無御初りよのや年、お進み、お進み、お進み、

抑うるゝ道中よりくても多量にあり一物取らば今道中よりく若く  
五二件に書後とあり

一 所方へのつては居るこゝに山前道所へ入る由ありて其書に之を控使するは  
所方へ御座りてくは月道所へ入る由ありて其書に之を控使するは  
くは控使するにありてくは控使するにありてくは控使するにありて  
心来りて控使するにありてくは控使するにありてくは控使するにありて  
三波の書へくは所方へ御座りてくは控使するにありてくは控使するにありて  
ありてくは控使するにありてくは控使するにありてくは控使するにありて

ナリ

有るやうにあつて居るにありて

一 地を本地主の御座りての抑うるを云々云々云々云々云々云々云々云々云々

書面内へも之を御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて  
中々も合々も御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて

よやく中岡の書に村々御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて  
りたり御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて  
ありて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて  
ありて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて  
御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて

ナリ

一 御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて

書面内へも之を御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて  
と御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて

ナリ

一 御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて  
又御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて  
又御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて









江戸浄心  
子十月

檢法細鑑 卷の四終

檢法細鑑 目録

卷の六

- 支體分別の石
- 移法 移法例 移人 移物 移法 移物 移法 移物 移法 移物
- 辨親生血屬の満骨親法 辨親生血屬の満骨親法 辨親生血屬の満骨親法 辨親生血屬の満骨親法
- 勒死 辨法例
- 自經死 日
- 差水投河死 日
- 初段段差水死 日
- 推毬死 日
- 又傷死 日
- 差手足踏死 日
- 自刺死 日

毒<sup>レ</sup>死<sup>レ</sup> 日<sup>レ</sup> 金<sup>レ</sup> 首<sup>レ</sup> 中<sup>レ</sup> 鼓<sup>レ</sup>

尸<sup>レ</sup> 後<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup> 日<sup>レ</sup>

湯<sup>レ</sup> 沸<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

病<sup>レ</sup> 危<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup> 日<sup>レ</sup> 邪<sup>レ</sup> 命<sup>レ</sup> 邪<sup>レ</sup> 命<sup>レ</sup>

沸<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

脚<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

杖<sup>レ</sup> 打<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

勢<sup>レ</sup> 撞<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

脚<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup> 又<sup>レ</sup> 跌<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

脚<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

馬<sup>レ</sup> 踏<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup> 并<sup>レ</sup> 牛<sup>レ</sup> 角<sup>レ</sup> 觸<sup>レ</sup> 着<sup>レ</sup>

車<sup>レ</sup> 碾<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

針<sup>レ</sup> 灸<sup>レ</sup> 即<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

雷<sup>レ</sup> 震<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

震<sup>レ</sup> 絞<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

頭<sup>レ</sup> 令<sup>レ</sup> 碎<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

外<sup>レ</sup> 地<sup>レ</sup> 壓<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup> 室<sup>レ</sup> 室<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

蛇<sup>レ</sup> 咬<sup>レ</sup> 傷<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

男<sup>レ</sup> 子<sup>レ</sup> 作<sup>レ</sup> 過<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

白<sup>レ</sup> 僵<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

子<sup>レ</sup> 鼠<sup>レ</sup> 犬<sup>レ</sup> 咬<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup> 傷<sup>レ</sup>

死<sup>レ</sup> 後<sup>レ</sup> 作<sup>レ</sup> 卽<sup>レ</sup> 停<sup>レ</sup> 沙<sup>レ</sup> 微<sup>レ</sup> 而<sup>レ</sup> 黃<sup>レ</sup> 色<sup>レ</sup>

壞<sup>レ</sup> 爛<sup>レ</sup> 死<sup>レ</sup>

表之部

一 頂心 頂心也あまのてのての中へる今ト云列也

一 偏に偏右 偏に偏なり因在と云也

一 懸つ 懸つるをいふ也又云くさるあり

一 取願 取つるをいふ也又云くさるあり

一 額角 額角の角也又云くさるあり

一 右方湯元 肩より湯元の上也

一 右肩 右の肩也

一 肩素 肩の素也

一 支眼胞 支眼胞の支也

一 右眼反脛 右眼の脛也

一 支脛類 支脛の類也

一 右年

一 耳端 耳のへり

一 耳垂 耳の下の肉也

一 耳竅 耳の孔也

一 各梁 鼻の骨也

一 各準 鼻の肉也

一 耳各竅 耳の孔也

一 人中 鼻の下の肉也

一 上下唇吻 唇の上下の肉也

一 舌

一 舌牙齒 舌の歯也

一 頷頰 頷の肉也

一 咽喉 喉の肉也

一 舌乳頰 舌の肉也

一 舌各竅 舌の孔也

一 友肩脚 肩の骨也

一 友腋肌 腋の肉也

一 友腋脂 腋の脂也

一 友腋脈 腋の脈也

一 友手腋 手の肉也

一 友手心 手の肉也

一 十指 手の指也

一 十指肌 指の肉也

一 十指甲絶 指の爪也

一 胸膈 胸の肉也

一 友乳

一 心攻 心の肉也

一 肚腹 腹の肉也

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一 友肋 わき骨 脇の骨也

一 友股 わきあそび 骨のり也

一 脇腋 わきのわ 腋也

一 友膝 まひ 膝の骨也

一 男子茎肉腎囊婦人陰戸 茎肉を男指腎囊水を婦人陰戸

一 友腿 あし 脚の骨也

一 友膝 膝 膝の骨也

一 友膝 ひざ 膝の骨也

一 友脚腕 あしづか 腕の骨也

一 友脚面 あしづか 腕の骨也

一 十趾甲 あしづか 腕の骨也

表之部

一 脇腋 わきのわ 腋の骨也

一 鬢際 かみ 髪の根也

一 耳根 みみ 耳の根也

一 項頸 かみ 頸の骨也

一 友臂膊 うで 腕の骨也

一 友腕肘 うで 腕の骨也

一 友手背 て 手の骨也

一 十指甲 て 手の骨也

一 脊背 せき 背の骨也

一 脊脊 せき 背の骨也

一 友後脚 うしろあし 足の骨也

一 友後股 うしろあそび 足の骨也

一 脇腋 わきのわ 腋の骨也

一 友臂 うで 腕の骨也



一 穀道 肛の也

一 支脚 七見

一 支脚 脚 幼少時の内

一 支脚 肚 五枚のそと

一 支脚 脚 くるまへ—也内を内踏ト云外を外踏ト云

一 支脚 踵 くるまへ

一 支脚 心 あ—のうへを

一 十趾 あ—の脇

一 十趾 肚 あ—の指先の肉の厚き所

一 十趾 甲 絶 あ—の指先の肉の厚き所

接法

一 九尾を接はる付を甚則お行て其尾の側りりかへ凡そふたし其れつ

骨肉軟弱又を甚則しをうしよのとつ削て去く甲尾を接し改めく人—改終

書けお載る筆しよの姓名と書入—

一 其尾を接はる付を甚則しをうしよのとつ削て去く甲尾を接し改めく人—改終

或は山を接はる付を甚則しをうしよのとつ削て去く甲尾を接し改めく人—改終

或は山を接はる付を甚則しをうしよのとつ削て去く甲尾を接し改めく人—改終

或は山を接はる付を甚則しをうしよのとつ削て去く甲尾を接し改めく人—改終

或は山を接はる付を甚則しをうしよのとつ削て去く甲尾を接し改めく人—改終

或は山を接はる付を甚則しをうしよのとつ削て去く甲尾を接し改めく人—改終

或は山を接はる付を甚則しをうしよのとつ削て去く甲尾を接し改めく人—改終

或は山を接はる付を甚則しをうしよのとつ削て去く甲尾を接し改めく人—改終

或は山を接はる付を甚則しをうしよのとつ削て去く甲尾を接し改めく人—改終

或は山を接はる付を甚則しをうしよのとつ削て去く甲尾を接し改めく人—改終



腎のくもる無のといふは、大小便の砂利も食入る人、何ぞ打込て有  
事しめ内也

一 那の世物、屍を改る付るは、肉を改を倍する付るは、大治の如し、  
陽血の如し、よも知る由ゆふし、改るは、陽血の如し、疑を避るは、不明の如し、  
事也

一 若くは月を屍二方より、一は、妻如の危、口氣、腹、及、其、脈、拍の上、肉色、少く、  
若くは、後、少く、れ、口、鼻、より、多く、汗、流、れ、か、脈、及、肝、脾、是、を、肥、肉、  
人、も、也、若くは、妻、病、を、形、被、ら、り、と、人、も、れ、半、月、は、後、不、多、の、也

一 及、く、り、と、屍、一、方、より、先、面、上、肝、及、其、脈、拍、上、肉、色、妻、如、の、也、  
若くは、口、鼻、より、多く、汗、流、れ、常、に、眼、目、の、上、筋、身、之、肝、脾、  
爛、れ、皮、の、始、り、く、也、起、り、也、四、方、より、れ、髪、落、る、也

一 秋、く、り、と、屍、二、方、より、先、面、上、肝、及、其、脈、拍、上、肉、色、少く、  
若くは、汗、流、れ、初、て、眼、目、多、く、筋、身、肝、脾、肝、脾、肝、脾、肝、脾、  
若くは、汗、流、れ、初、て、眼、目、多、く、筋、身、肝、脾、肝、脾、肝、脾、

色、れ、髪、落、る、也

一 冬、く、り、と、屍、四、方、より、筋、身、ノ、肉、色、若くは、  
口、鼻、高、熱、を、多、く、若くは、屍、上、又、薦、席、を、有、と、  
付、り、筋、身、を、少、く、也、以、佛、王、人、一、  
聖、熱、く、付、る、屍、上、日、過、レ、ハ、即、皮、肉、  
過、レ、ハ、皮、肉、の、始、り、く、  
聖、熱、く、付、る、屍、上、日、過、レ、ハ、即、皮、肉、  
過、レ、ハ、皮、肉、の、始、り、く、  
聖、熱、く、付、る、屍、上、日、過、レ、ハ、即、皮、肉、  
過、レ、ハ、皮、肉、の、始、り、く、

一 若くは、  
聖、熱、く、付、る、屍、上、日、過、レ、ハ、即、皮、肉、  
過、レ、ハ、皮、肉、の、始、り、く、  
聖、熱、く、付、る、屍、上、日、過、レ、ハ、即、皮、肉、  
過、レ、ハ、皮、肉、の、始、り、く、  
聖、熱、く、付、る、屍、上、日、過、レ、ハ、即、皮、肉、  
過、レ、ハ、皮、肉、の、始、り、く、

一 若くは、  
聖、熱、く、付、る、屍、上、日、過、レ、ハ、即、皮、肉、  
過、レ、ハ、皮、肉、の、始、り、く、  
聖、熱、く、付、る、屍、上、日、過、レ、ハ、即、皮、肉、  
過、レ、ハ、皮、肉、の、始、り、く、  
聖、熱、く、付、る、屍、上、日、過、レ、ハ、即、皮、肉、  
過、レ、ハ、皮、肉、の、始、り、く、

一 九、  
聖、熱、く、付、る、屍、上、日、過、レ、ハ、即、皮、肉、  
過、レ、ハ、皮、肉、の、始、り、く、  
聖、熱、く、付、る、屍、上、日、過、レ、ハ、即、皮、肉、  
過、レ、ハ、皮、肉、の、始、り、く、  
聖、熱、く、付、る、屍、上、日、過、レ、ハ、即、皮、肉、  
過、レ、ハ、皮、肉、の、始、り、く、













とて湧き事ありて此の如き竹筵を以て敷くひて又其ハ見たり  
一 溺因、者獄中を病死スルハ軽き病力段々言く事ありて十分大切あり  
て死ルがあり其内其ハ痛去頭痛十ト朝ハ昏して夕ハ死る物有又  
年中ハ此十トハ即降ル死多ト也先大抵ハ軽き病あり言く故て死  
也又其病を治す方ハ死多しあり先ハ救ハ因て居る事ハ口ハ常ハ山  
レト苦て居故ニ常人ノヤウハ無き事あり病ハ言く方ハ救は其  
テ十分大切あり成て死カ也又其病痼疾ナレハ形ハ痼疾セ弱りて腹毛  
肚毛盛く臨ミ下ク又俄カ死ク者あり此ハ取テ夜ヨハリセバ腹毛臨ミ  
ト其等也

竹筵を以て敷くひて又其ハ見たり

越後縣田代郡長岡

田代三女